

# 2008年12月期(第30期) 中間決算説明資料

2008年8月13日

① 株式会社 小田原エンジニアリング

# 2008年12月期中間業績概要(1)

## <経済の動向>

### ①我が国経済は不透明感を増した

- ・米国経済の後退懸念、原油や原材料の価格高騰が起きた。
- ・企業収益や設備投資が弱含み、消費者物価が上昇に転じた。

### ②世界経済は景気回復が緩やかになり、景気減速の動きも強まった

- ・米国経済は個人消費・設備投資が弱い動きとなるなど、景気後退が懸念された。
- ・アジアでは中国等の景気は引き続き拡大した。欧州でも景気回復の動きがあった。

## <モーター製造業界の動向>

- ・昨年後半から年初まで、設備投資に意欲的な動きが一部にあった。
- ・その後一転して、設備投資に慎重な姿勢が強まった。

# 2008年12月期中間業績概要(2)

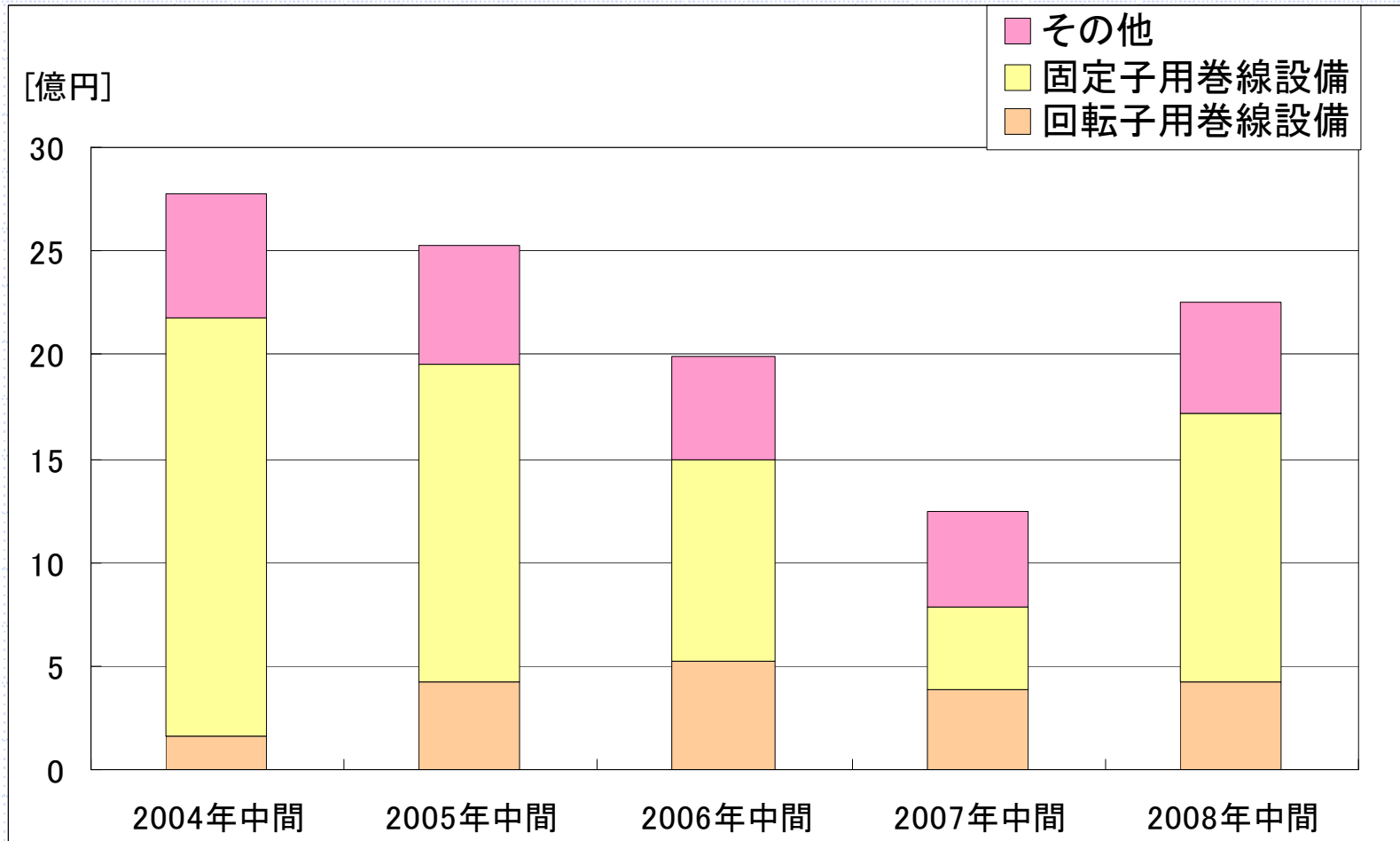
## <ODAWARAグループの活動>

- ①モーター製造業界の設備投資動向に沿った製品を提供すべく、懸命な営業活動を展開するとともに、技術開発とコストダウンに努めた
- ②お客さまに満足いただける製品を開発した  
代表的なものとしては、
  - ・生産性をさらに向上させたハイブリッドカー用モーターの高速自動巻線システム。
  - ・電装品用モーターの全自動巻線システム。
- ③ 連結業績の概要
  - ・売上高は、順調に受注が獲得でき、ほぼ計画どおり2,253百万円(前期比80.8%増)となった。
  - ・経常利益は、順調な売上高と営業利益の確保に加え、海外投資先からの受取配当金が104百万円と大幅に増加し、454百万円(前期比357.4%増)となった。
  - ・中間純利益は、資産の有効活用や資産健全化を図る観点から減損処理(114百万円)を実施し、146百万円(前期比196.1%増)となった。

## 経営指標等の推移(連結)

	2004年中間	2005年中間	2006年中間	2007年中間	2008年中間
売上高 (百万円)	2,780	2,525	1,996	1,246	2,253
経常利益 (百万円)	324	387	142	99	454
中間純利益 (百万円)	148	206	112	49	146
純資産額 (百万円)	6,698	6,762	6,805	6,856	6,989
総資産額 (百万円)	8,904	9,132	8,102	8,080	8,965
1株当たり純資産 (円)	1,059	1,071	1,114	1,163	1,186
1株当たり中間純利益 (円)	23.55	32.69	17.81	8.37	24.79
売上高経常利益率 (%)	11.7	15.4	7.1	8.0	20.2

# 製品別売上高推移(連結)



# 業績推移(連結)

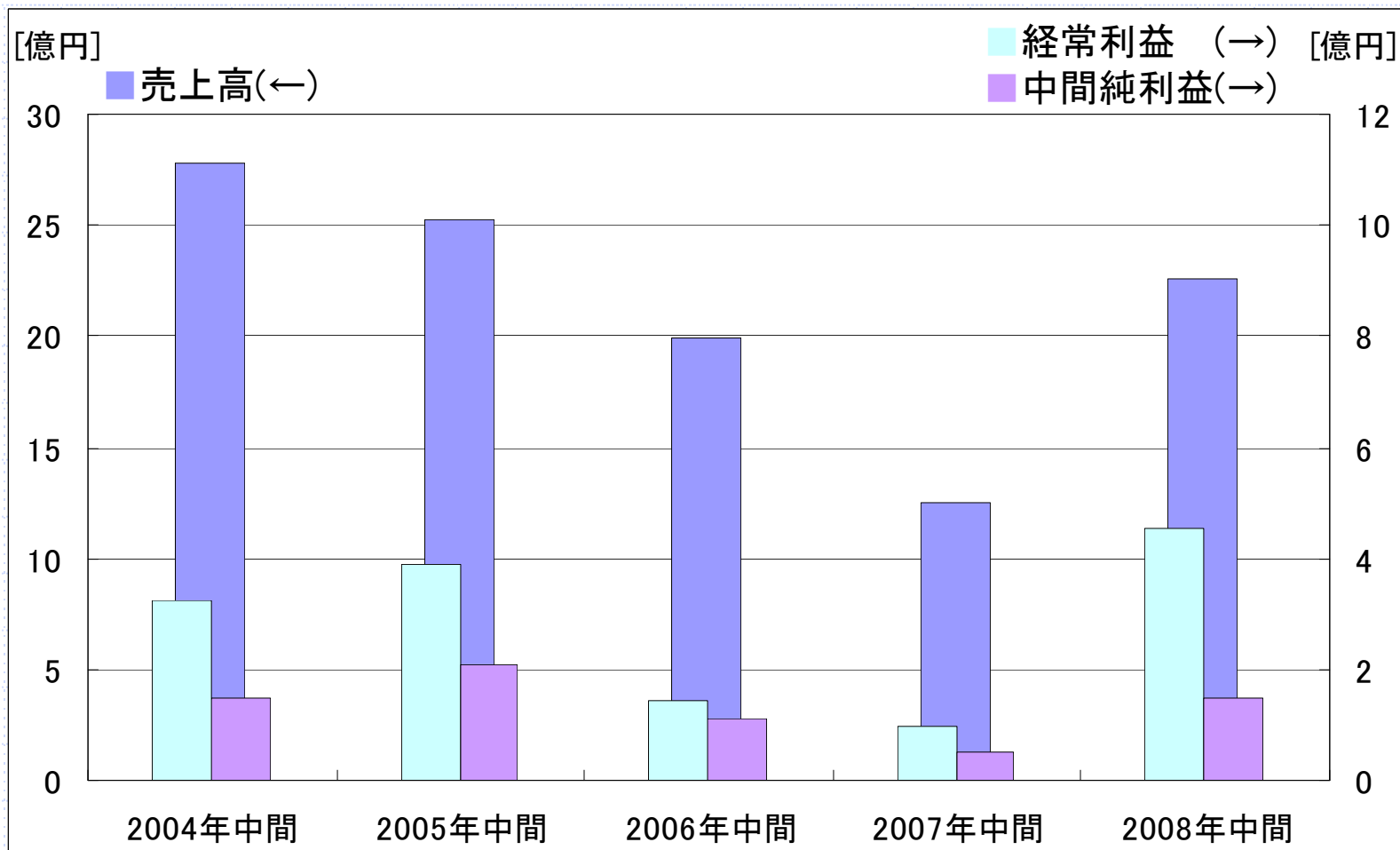
2004年：大口受注の獲得により売上高が伸長

2005年：大口案件の売上計上が下期へ遅延、原価低減は奏功

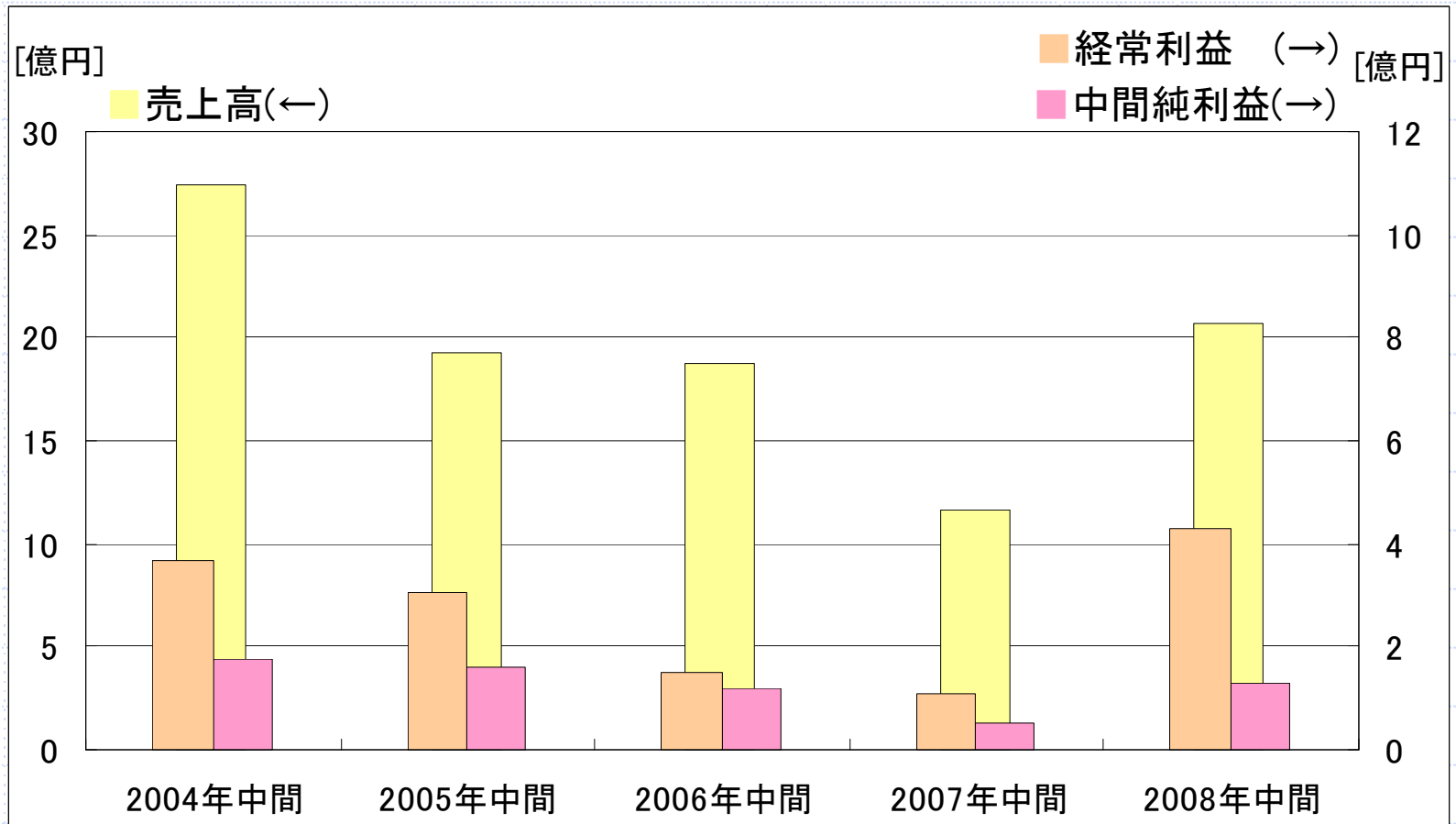
2006年：モーター製造業界の設備投資鈍化、原価率の悪化

2007年：モーター製造業界の設備投資低調の影響

2008年：土地の減損損失1.14億円を計上

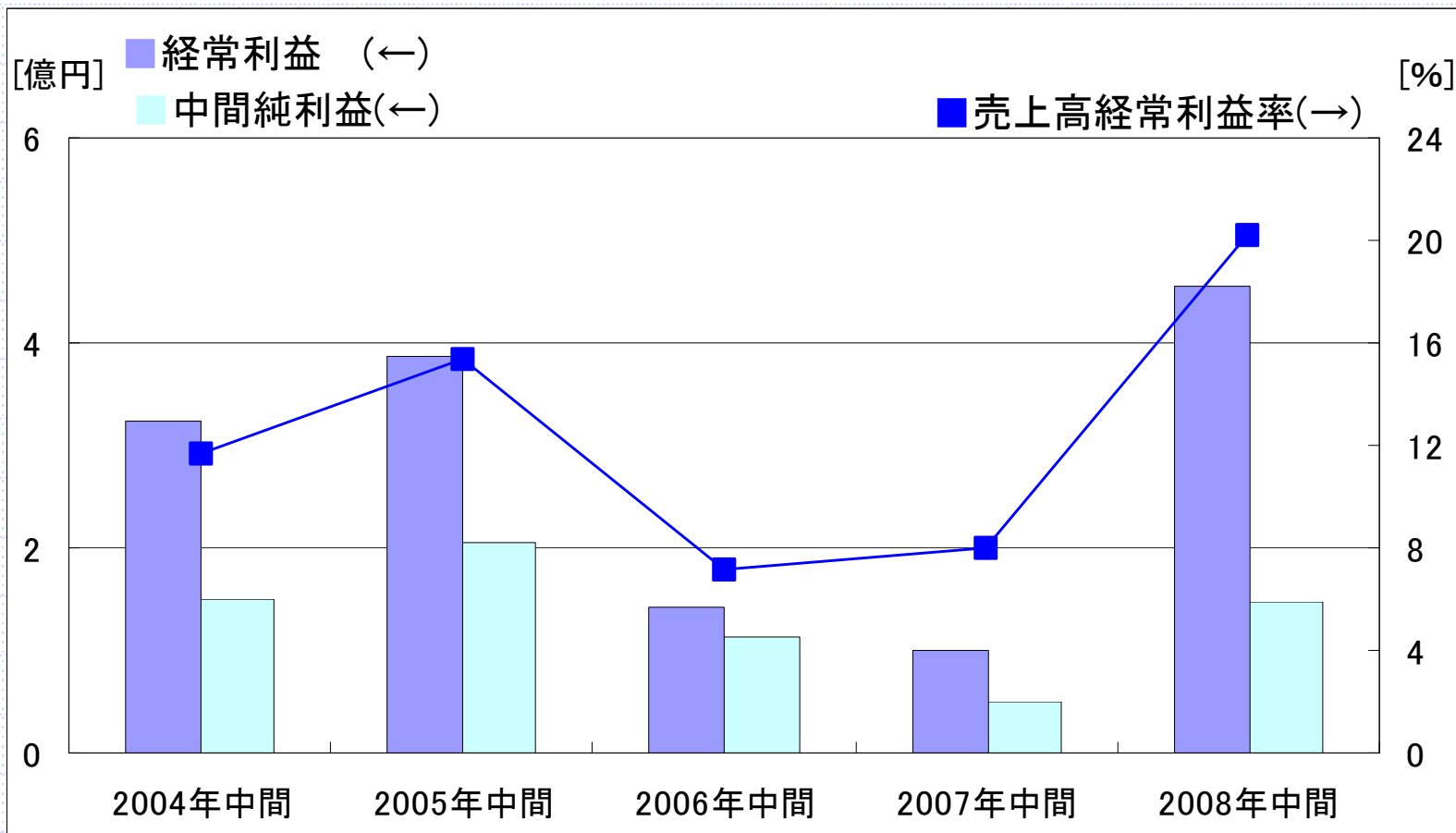


# 業績推移(単独)



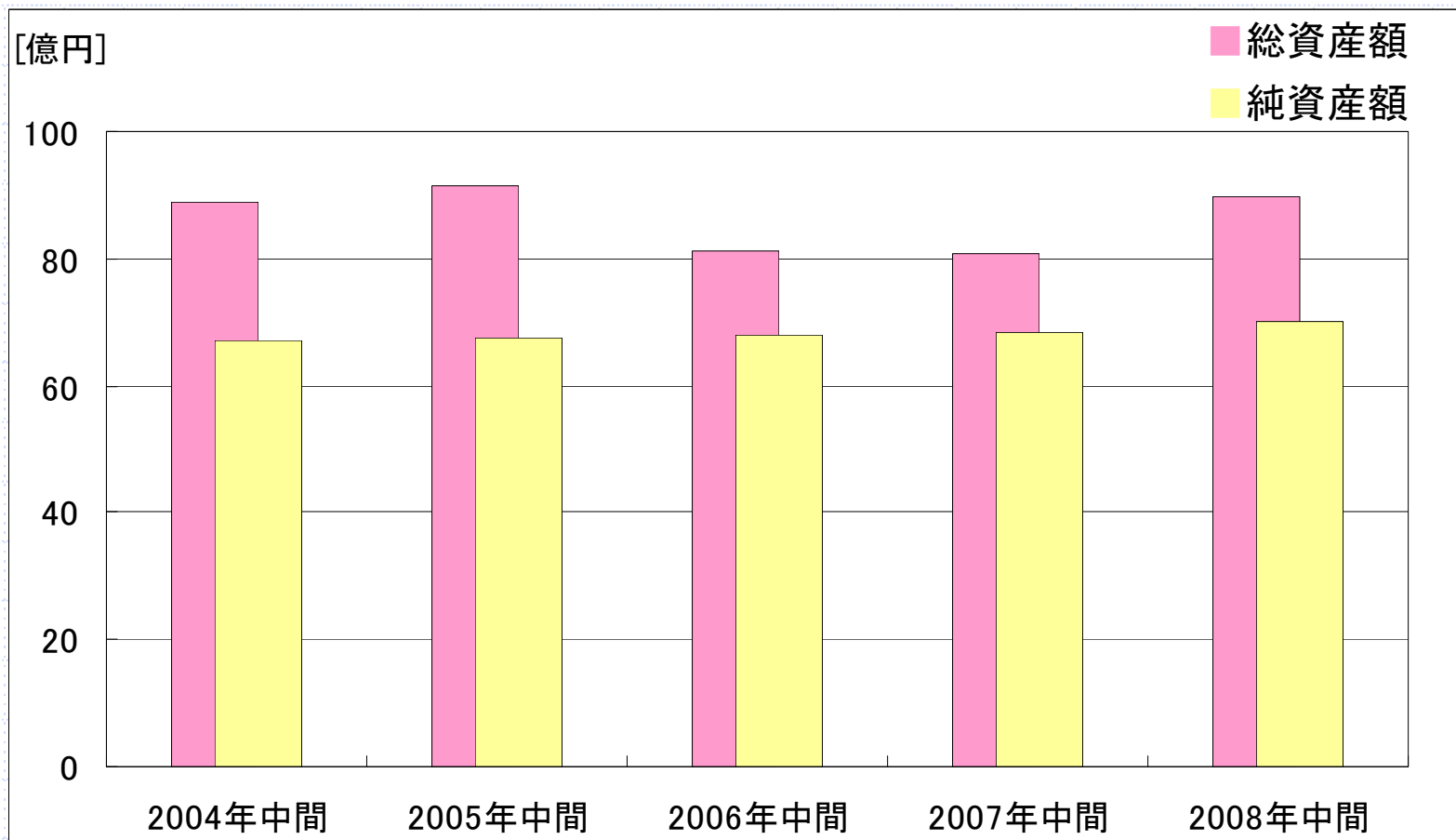
# 經常利益・中間純利益

## ・売上高經常利益率(連結)



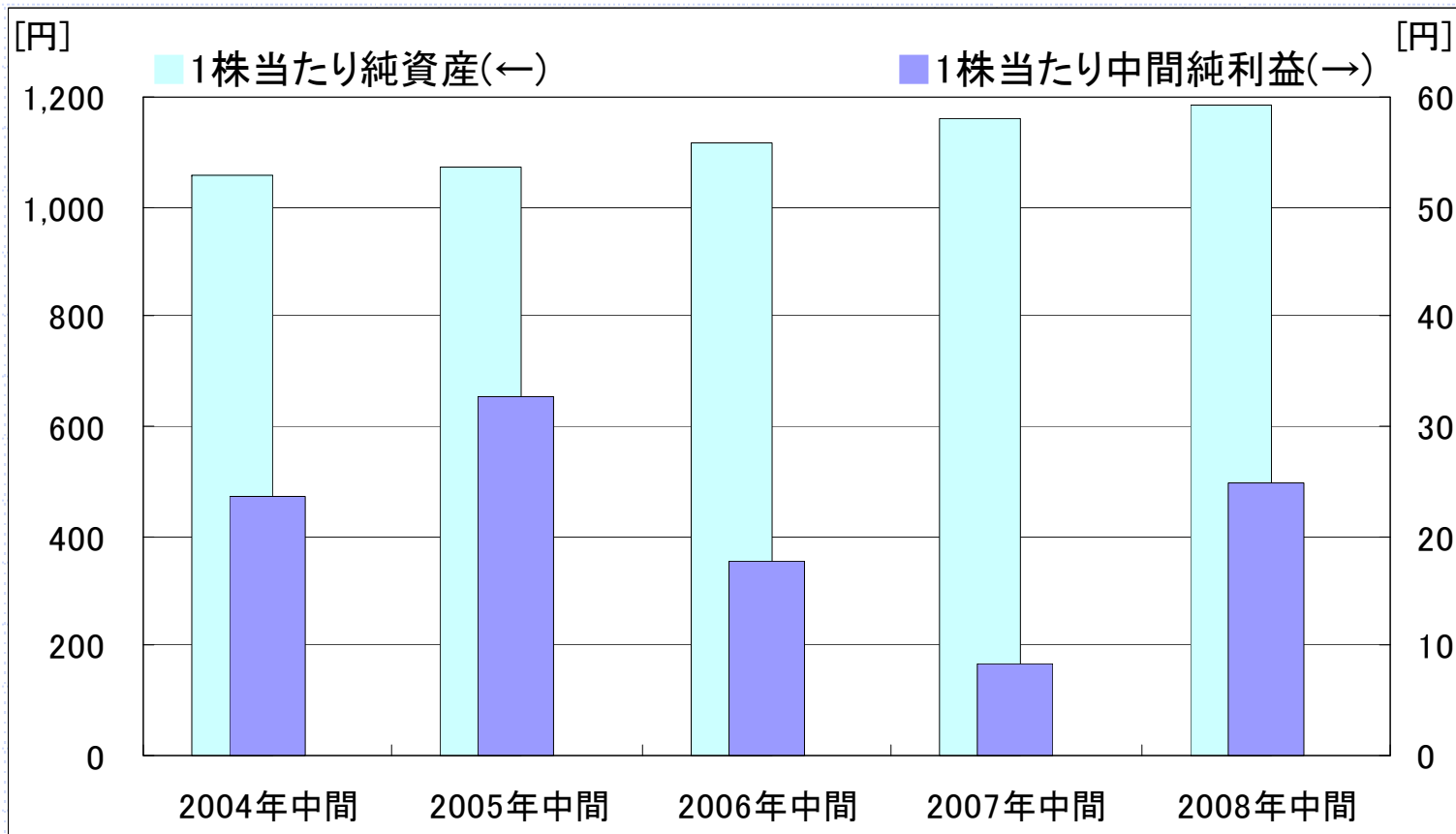


# 総資産額・純資産額(連結)

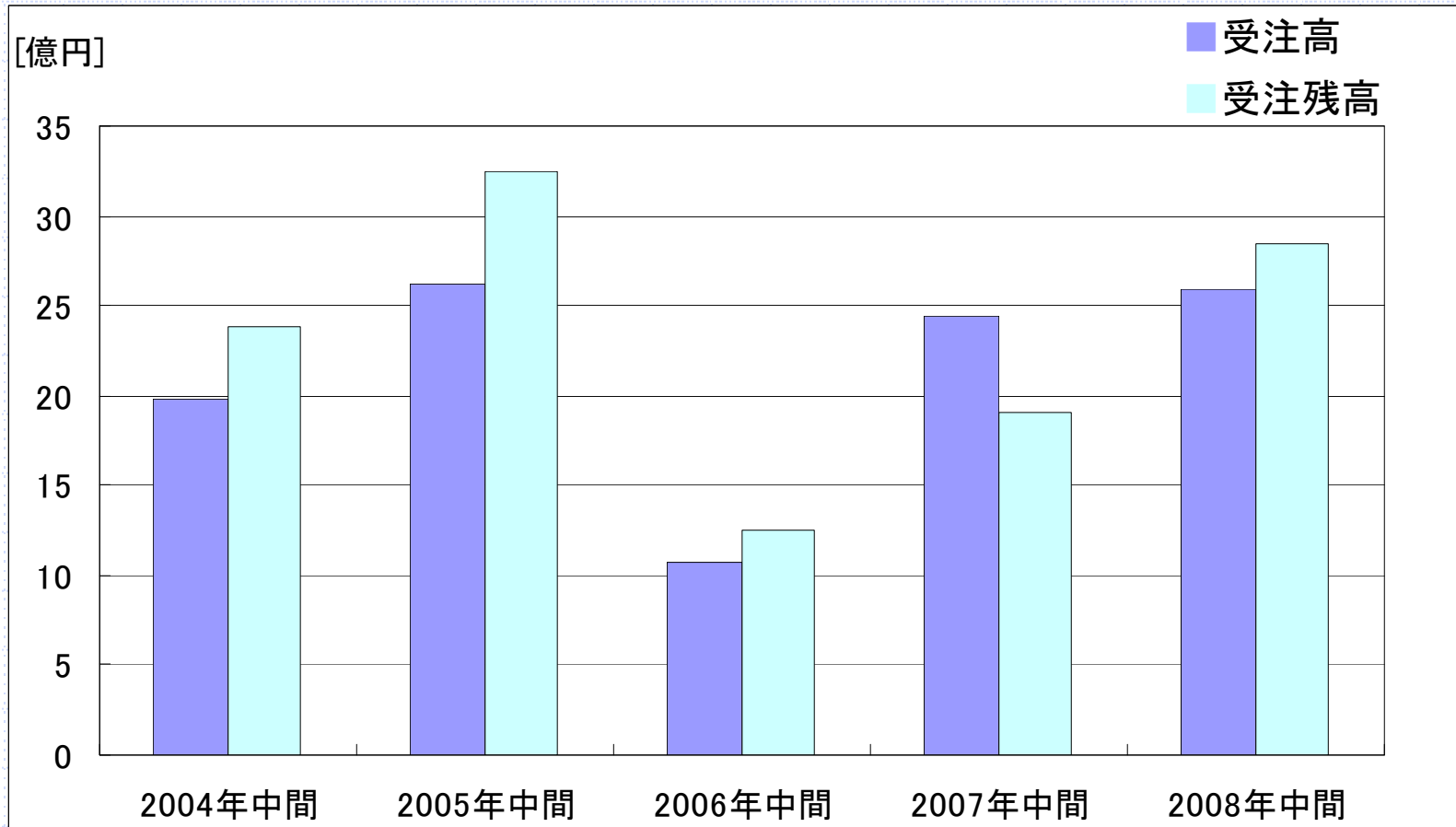


# 1株当たり純資産額

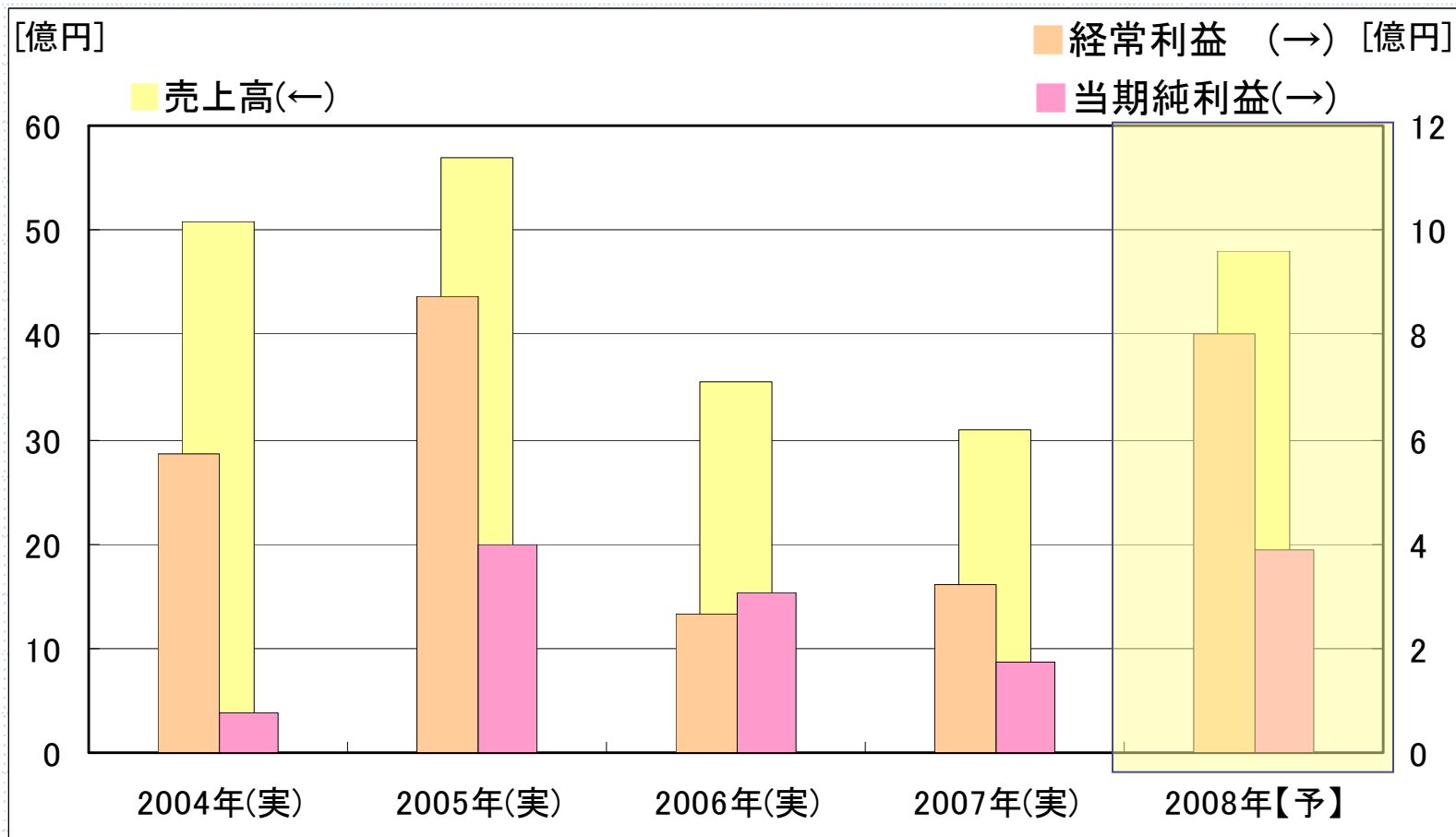
## ・ 1株当たり中間純利益(連結)



# 受注動向(連結)



# 通期業績予想(連結)



# 決算説明資料について

本資料に記載されている業績予想等については、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき、当社グループが判断したものでありますが、今後の様々な要因の変化により、将来の事業を取り巻く環境が大きく変動することがあります。

従いまして、将来の業績等につきましては、実施の業績等とは異なる場合がありますのでご了承ください。

株式会社小田原エンジニアリング